

庭見草



幾何学的・視覚的技法にみる西洋式庭園との共通点

桂離宮には直線的な露地など、当時の日本庭園とかなり異質な造りをしてはいますが、どこかすがすがしく見えます。

庭園全体の放射状配置などの幾何学的技法や、パースペクティブやビスタ、額縁効果、黄金分割などといった視覚的技法など西洋にみられる構成技法との共通点を多くみせながら、ずらす、さえぎる、緩やかに曲げるなどの技が随所にあり、その調和が心地良いです。

名勝の見立て

庭園内には天橋立、州浜と岬燈籠、鼓の滝、住吉の松、紅葉山、蘇鉄山、神泉島、螢谷など名勝の見立てや四季折々の様々な景の楽しみなど趣向が凝らされています。

茶亭と舟着と燈籠

数奇屋建築の傑作といえる内と外が一体的につくられた茶亭。その近くに寄りつくことのできる舟着の配置など、優雅な宮廷生活において、消夏、観月を楽しむための別荘であったことが伺えます。

燈籠は単体の面白さ、添景としても見どころでした。



心も身も、みちみちて酔いしれる体験：桂離宮

京都市西京区桂園町 ※拝観には事前申し込みが必要です。

街角サロン「庭園部会：桂離宮」に同行し、空間創研の吉田氏の講義の後、宮内庁京都事務所林園課の川瀬さんにご案内をいただき、じっくり御庭を看ながら、様々な技や工事についてお聞かせいただきました。

桂離宮は江戸初期に智仁・智忠親王により八条宮の別邸として築かれ、書院造と数奇屋造りが融合した建物や、さまざまな技法の粋を集めながら見事に昇華した庭園は、日本文化の最高傑作として知られています。

雄大な景観

桂離宮が完成した当時の趣を歌い上げた「桂亭記」には庭園だけでなく、苑池から見渡す大自然を含めた東西南北の眺望、家々の屋根並みと柳、桜の枝の重なり、桃や李の色の風情、川の流れや水面の月、寺社の社殿などといった外側について細かく記されていることから、当時

やわらかい肌理を生む繊細な技術

庭園内に身を置くと言葉に出来ない感動をうけますが、全体の景だけでなく、あられこぼし、くろもじ垣、桂垣（笹垣）や穂垣といった庭園の肌理を生む技にも直接触覚や視覚に訴える素晴らしさがあります。



↑あられこぼし くろもじ垣→
桂垣・笹垣(最も右)



◇後記◇庭園全体の明快な構成が素晴らしいだけでなく、景や数奇の趣向、さらに眼を凝らして細部を見ても、そこには確かな手仕事で隙間無く埋め尽くされている。全体から部分がほころびることなく調和が取れていることに感動と満足のひと時でした。学生時代に写真や図面などをみて「格好良い！真似したい」と単純に思っていたことは、危うい試みだったようです。只ただ敬服。竈 圭人 (株)スペースビジョン研究所